

定期的に受けましょう! がん検診



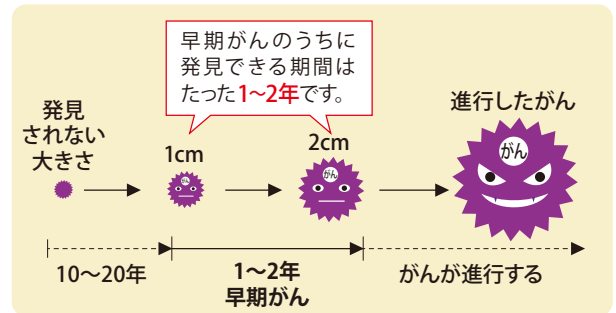
がん検診の重要性

がんは死亡原因の第一位です。日本人の2人に1人はがんにかかり、3人に1人はがんで死亡すると言われています。

がんは初期にはほとんど自覚症状がありません。そのため、定期的ながん検診や人間ドックで早期発見することが大切なのです。

がん検診の最大のメリットは、早期発見によりがんの罹患率や死亡率が減少することです。一方でデメリットとして、がんでないのに「要精密検査」と判断される場合(偽陽性)や、がんがあるのに見つけられない場合(偽陰性)があります。がんは発生してから一定の大きさになるまで発見しにくく、見つけにくい場所や形をしている場合には発見できないことがあり、検査の精度は100%ではありません。ただし、継続して受診することで、がんを発見できる確率は高まります。

胃・大腸・肺がん検診は1年に1回、乳・子宮頸がん検診は2年に1回、定期的に受けましょう。また、症状がある場合は、検診を待たずに医療機関を受診しましょう。



受診を推奨する年齢と受診間隔

がん検診の種類	年齢	受診間隔
胃がん検診(胃部X線) (胃内視鏡)	40歳以上	1年に1回
	50歳以上	2年に1回
大腸がん検診	40歳以上	1年に1回
乳がん検診	40歳以上	2年に1回
子宮頸がん検診	20歳以上	2年に1回
肺がん検診	40歳以上	1年に1回

がんの部位別統計

部位別がん罹患数(出典:2017年全国がん罹患データ)

	1位	2位	3位	4位	5位
男性	前立腺	胃	大腸	肺	肝臓
女性	乳房	大腸	肺	胃	子宮

部位別がん死亡数(出典:2018年人口動態統計 厚生労働省)

	1位	2位	3位	4位	5位
男性	肺	胃	大腸	膵臓	肝臓
女性	大腸	肺	膵臓	胃	乳房

精密検査は必ず受けましょう

がんは早期発見・早期治療することで治すことができる病気です。

本日の結果で「要精密検査」となった場合は、必ず精密検査を受けましょう。

受診する際は忘れずにご持参ください

- 紹介状(診療情報提供書)
- 健康保険証
- 健康診断結果のお知らせ

PETがん健診

PET検査はがん細胞の特性を利用した検査法です。条件が良ければ、数ミリのがん病巣を発見することも可能です。痛みを伴うことなく、3~4時間で全身を一度にチェックできます。



北九州病院グループ
一般財団法人 西日本産業衛生会

小倉

北九州健診診療所 北九州PET健診センター
TEL 093(561)0030 TEL 093(591)2503

八幡

八幡健診プラザ(北九州産業衛生診療所)
TEL 093(671)8100

福岡

福岡健診診療所
TEL 092(471)1165

大分

大分労働衛生管理センター
TEL 097(552)7788

〈がん検診の精密検査〉

胃がん

【受診する診療科】胃腸科・消化器科

胃がんはがんによる死亡原因の上位に位置するがんです。早期の胃がんは自覚症状がないことがほとんどで、あっても胃の痛み、不快感、食欲不振など軽いものです。進行しても自覚症状がない場合もありますので、必ず精密検査を受けましょう。

精密検査方法

主に胃内視鏡検査(カメラ)を行います。検査で疑わしい部位が見つかった場合、組織を採取し、悪性かどうかを診断します。



大腸がん

【受診する診療科】胃腸科・消化器科

大腸がんにかかる人が増えています。自覚症状は、血便、腹痛、便の性状や回数の変化などがありますが、症状がないこともあります。また大腸がんから常に出血しているとは限らないため、便潜血検査が毎回陽性になるわけではありません。精密検査としての便潜血検査の繰り返しはがんの見落としにつながりますので、陽性になった場合は内視鏡検査を受けましょう。

精密検査方法

主に大腸内視鏡検査を行います。下剤で大腸を空にした後に、肛門から内視鏡を挿入して大腸を撮影し、がんやポリープがないかを調べます。大腸全体を内視鏡で観察することが困難な場合はX線検査を併用します。必要に応じて組織を採取し悪性かどうか診断します。



乳がん

【受診する診療科】乳腺外科

乳がんは女性のがんの中でもかかる人が多いがんです。自覚症状は、しこり、乳房のひきつれ、乳頭からの分泌物、乳頭の湿疹やただれなどがあります。しかし、早期のがんでは自覚症状がない場合がほとんどです。必ず精密検査を受けましょう。

精密検査方法

主にマンモグラフィー検査の追加撮影や超音波検査(エコー)、MRI検査、また疑わしい部位に針を刺して細胞や組織を採取し、悪性かどうかを診断する穿刺吸引細胞診や組織診を行います。



子宮頸がん

【受診する診療科】婦人科

子宮頸がんは女性のがんの中でもかかる人が比較的多く、近年増加傾向にあります。自覚症状は、不正出血や不規則な月経、普段と違うおりものが増えるなどがあります。初期の子宮頸がんは、自覚症状がない場合がほとんどです。必ず精密検査を受けましょう。

精密検査方法

主にコルポスコープ(腔拡大鏡)検査を行います。コルポスコープを使って子宮頸部を詳しく調べます。異常な部位が見つかった場合は組織を一部採取して悪性かどうかを診断します。また結果によりHPV検査を行い、コルポスコープ検査が必要かどうかを判断することもあります。



肺がん

【受診する診療科】呼吸器科

肺がんは死亡原因の上位に位置するがんで、男性に多い傾向にあります。肺がんの自覚症状は、血痰、長引く咳、胸痛、声かれ、息切れなどがありますが、自覚症状がない場合もありますので、必ず精密検査を受けましょう。

精密検査方法

主に胸部CT検査、気管支鏡検査を行います。気管支鏡検査では、気管支鏡を口や鼻から気管支に挿入して病変が疑われた部分を直接観察します。必要に応じて組織を採取し、悪性かどうかを診断します。



喫煙と肺

たばこを吸わない人に比べて、たばこを吸う人は日本人男性では約5倍、女性では約4倍肺がんで亡くなるリスクが高くなり、たばこを吸う年数、本数が多いほど肺がんになりやすいという研究結果が出ています。たばこは喫煙者本人のみならず、周りの人(受動喫煙者)の肺がんリスクもあげてしまいます。禁煙によってご自身と周りの人の健康な肺を守りましょう。

出典「国立がん研究センターがん情報サービス」

※検診機関と精密検査を受診した医療機関が異なる場合、検診機関の検診精度向上のため、検診機関にも後日、精密検査結果が共有されます。(個人情報保護法の例外事項として認められています)